

上市町橋梁長寿命化修繕計画

(令和8年3月更新)

1 計画の目的

① 上市町が管理する橋梁の高齢化が進んでいます

上市町は令和4年度に町が管理する橋梁203橋(令和7年度末現在204橋)を対象に橋梁長寿命化修繕計画を策定しました。これらの多くは高度経済成長期に建設されたもので、建設後50年以上経過した橋梁の割合は、全体の54.7%にのぼります。その割合は、10年後(2035年)には87.2%、20年後(2045年)には90.5%にまで増加し、橋梁の高齢化はさらに進行します。

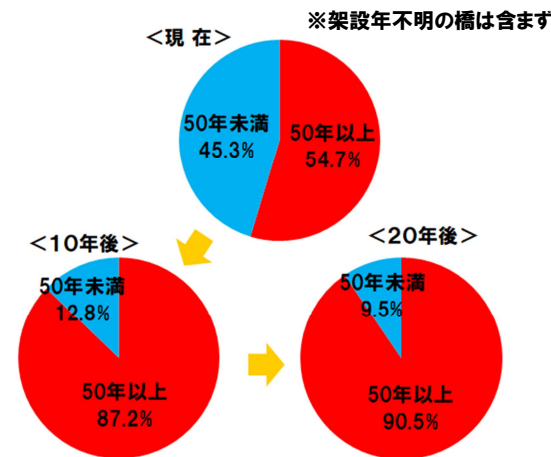
これまでに点検を実施した結果、コンクリートのひび割れや鋼材の腐食など様々な損傷が見られました。

② このまま放置すると、日常生活に影響が出てきます

壊れてから補修を行う事後保全型の維持管理を続けた場合、一斉に大規模な修繕が必要となる時期を迎えるため、老朽化に起因する突発的な事故が発生したり、通行制限など安全・安心に大きな影響が出てきます。また、増大する補修費による財政の逼迫が懸念されます。

➡ 計画的な修繕により寿命を延ばし、修繕費を抑えます

従来の橋梁の劣化が大きくなってから修繕を行う維持管理の方法を「**事後保全型**」といいます。これに対し、橋梁の劣化が小さいうちに修繕を行い、計画的かつ予防的に維持管理する方法を「**予防保全型**」といいます。事後保全型と予防保全型を組み合わせた維持管理へ移行することで、道路交通ネットワークの安全を確保し、橋梁の長寿命化と修繕費の縮減を図ります。



2 計画策定への取り組み

① 点検により橋梁の健全性を把握します

橋梁の各部材の「健全性」を把握するため、5年ごとに定期点検を実施します。また、日常的な道路パトロールにより異常が発見された場合はすみやかに対応を図ります。

② 優先順位に応じて適切に修繕を計画します

橋梁の健全性と重要度に応じた「優先順位」を設定し、適切な対策を実施します。なお、各橋梁の「重要度」は緊急通行確保路線、交差条件、中心部を結ぶ路線、バス路線、路線種別、橋長により設定されます。

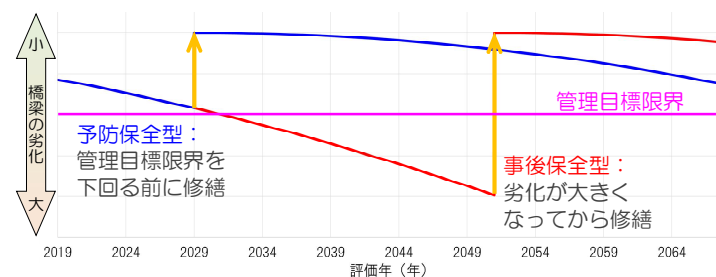
③ 最適な時期に最適な修繕を計画します

従来の事後保全型の維持管理では、劣化が大きくなってから修繕を行うため、修繕費が高くなります。

予防保全型では、橋梁ごとに「管理目標限界」を定め、経年劣化によってそれを下回らない時期に対策を計画することで、橋梁の劣化を遅らせ、管理水準を維持するとともに修繕費の抑制を図ります。



(橋梁側面の点検状況)



(事後保全型と予防保全型のイメージ図)

3 長寿命化修繕計画による効果

① 計画的な修繕対策により橋梁の健全性を改善し、寿命を延ばすことができます

橋梁の健全性の判定区分は国の要領により下表のように規定されています。事後保全型と予防保全型の組み合わせによる維持管理を行うことで、概ね12年間でⅢに区分される劣化の大きな橋梁をなくし、以降は予防保全型の維持管理に移行し、適切な健全性を保持しながら、橋梁の長寿命化を図ることができます。



コンクリート橋のひび割れ
鋼材の腐食
(対象橋梁の対策を要する損傷例)

区分	定義	橋梁数
I 健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。	108 橋
II 予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。	83 橋
III 早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。	12 橋
IV 緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。	1 橋

② 修繕費を大幅に縮減できます

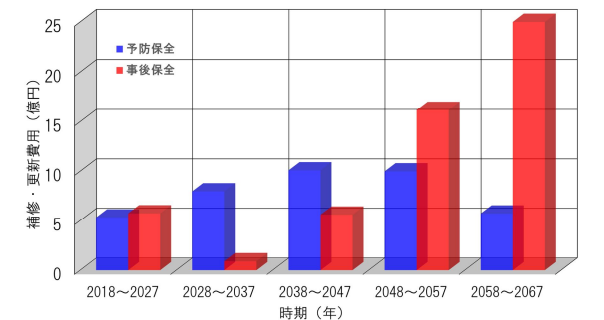
計画対象橋梁について、「従来までの事後保全型維持管理による修繕費」と「本計画に沿った予防保全型維持管理による修繕費」をそれぞれ算出しました。両者の差が計画の策定による効果となります。

今後50年間に…

事後保全型【従来型】 53.5 億円

予防保全型【本計画】 39.1 億円

→ 修繕費の縮減額 14.4 億円

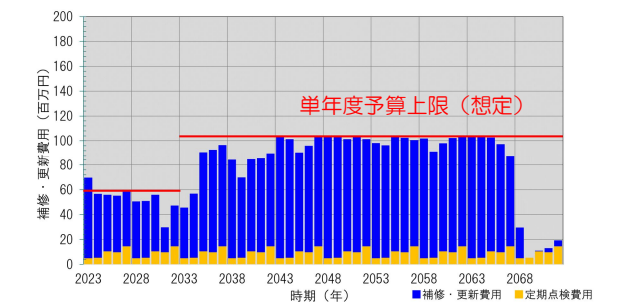


(管理手法による修繕費のシミュレーション比較)

③ 予算の平準化により、計画の実現性が高まります

単年度に必要なすべての対策のうち、優先順位の高いものから順に予算を割り当てます。必要な修繕費が予算を超えると見込まれる場合は、前年や翌年の予算との調整を検討し、事前に予算の平準化を行うことが可能となります。

予算の平準化によって、単年度に必要な予算の肥大化を防ぎ、実現性の高い修繕計画となります。



(修繕予算の平準化の例)

4 今後の方針

定期的に計画を見直し、より実状に適した計画を策定します

上市町の橋梁の状況に見合った計画となるよう、今回の計画内容について5年ごとの定期点検の結果や修繕の実績を基に、定期的に修繕の優先順位などを見直します。

5 ご意見をいただいた学識経験者

この計画では、橋梁長寿命化修繕計画の専門家として、次の先生にご意見をいただきました。

金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 近田 康夫 教授